

兒こ雷らい也や豪傑こうせつ譚たん
 上の卷うわのまき
 第十七篇第十七篇



^13
 3878
 33

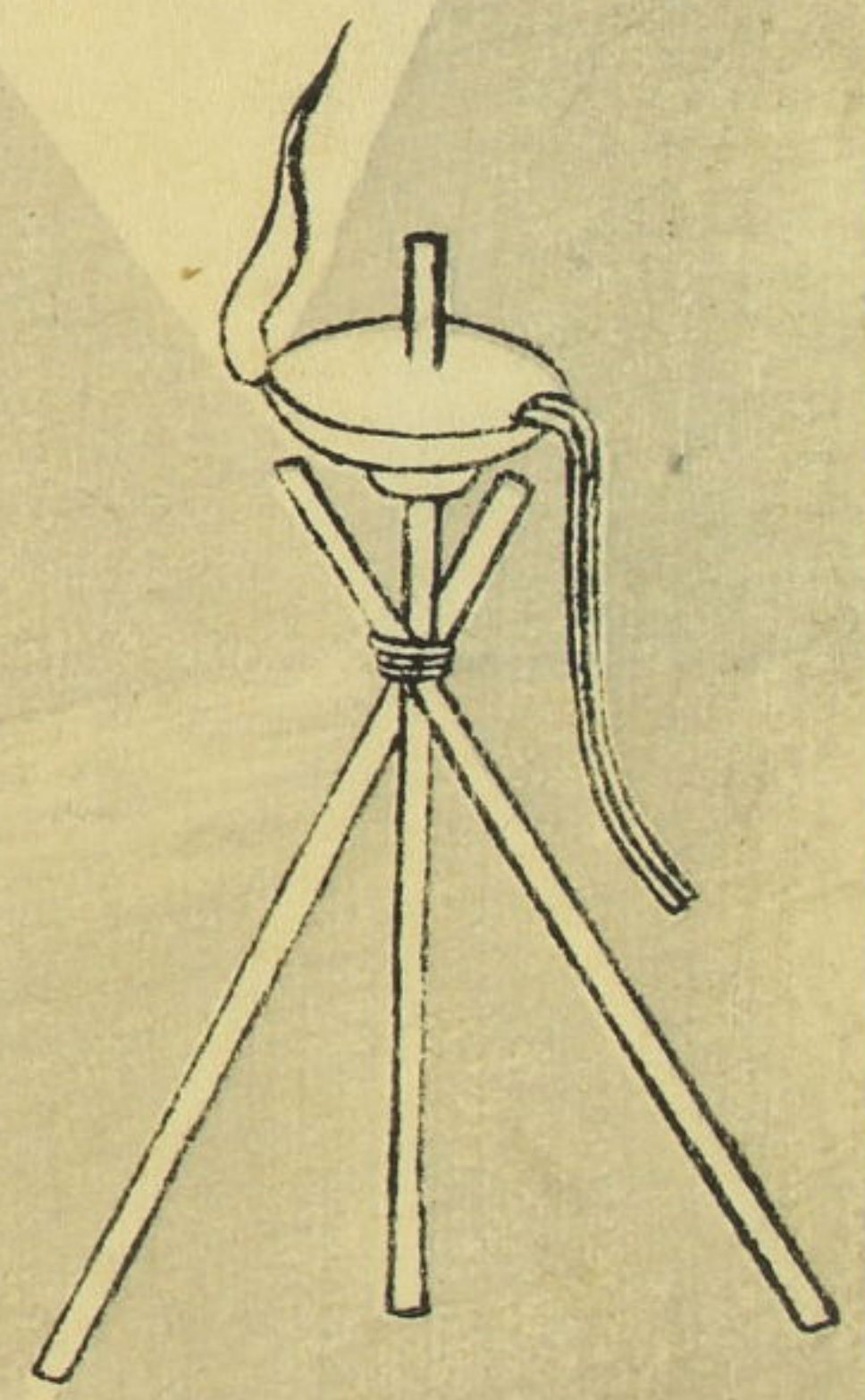


門へ13
 號 3878
 卷 33

兒雷也
 豪傑譚

上卷

一 柳下亭作
 壽多画



泉市 捧

水滸傳の宋江等が一度兗徒の名を得るも本善小婦さの後の朝家の為小命と
 抛り賊軍と平んとする故小評して初善中惡後忠の名となり此兒雷也也亦
 然以前の巻中非道野業辱るるも心正路を反しより仁と施し義と守奇
 術のれも悪中平小用と閑家の助さるる度と破と是山泊の黨小破りしや元
 稿を起立する笑顔主の意の不知僕案其條も趣ハ中頃僅小終編せし
 一筆庵が無方小口匣へ拳し人名をとり爰小不慮作補と成て小説の最
 生讀の甲斐國なる浦置土浪治大蛇丸の誅四討ケ所謂田虎方臘攻杯也
 物とて巻を追う長譚小甘泉堂が幸身分も彼及時雨が湖上放輝
 花燈小等々此書名の江湖小明く聞る功実梁山の簾と流る美圖
 項大人が一世の答言なり

吉加永四辛史陽春發兌

柳下亭種員識

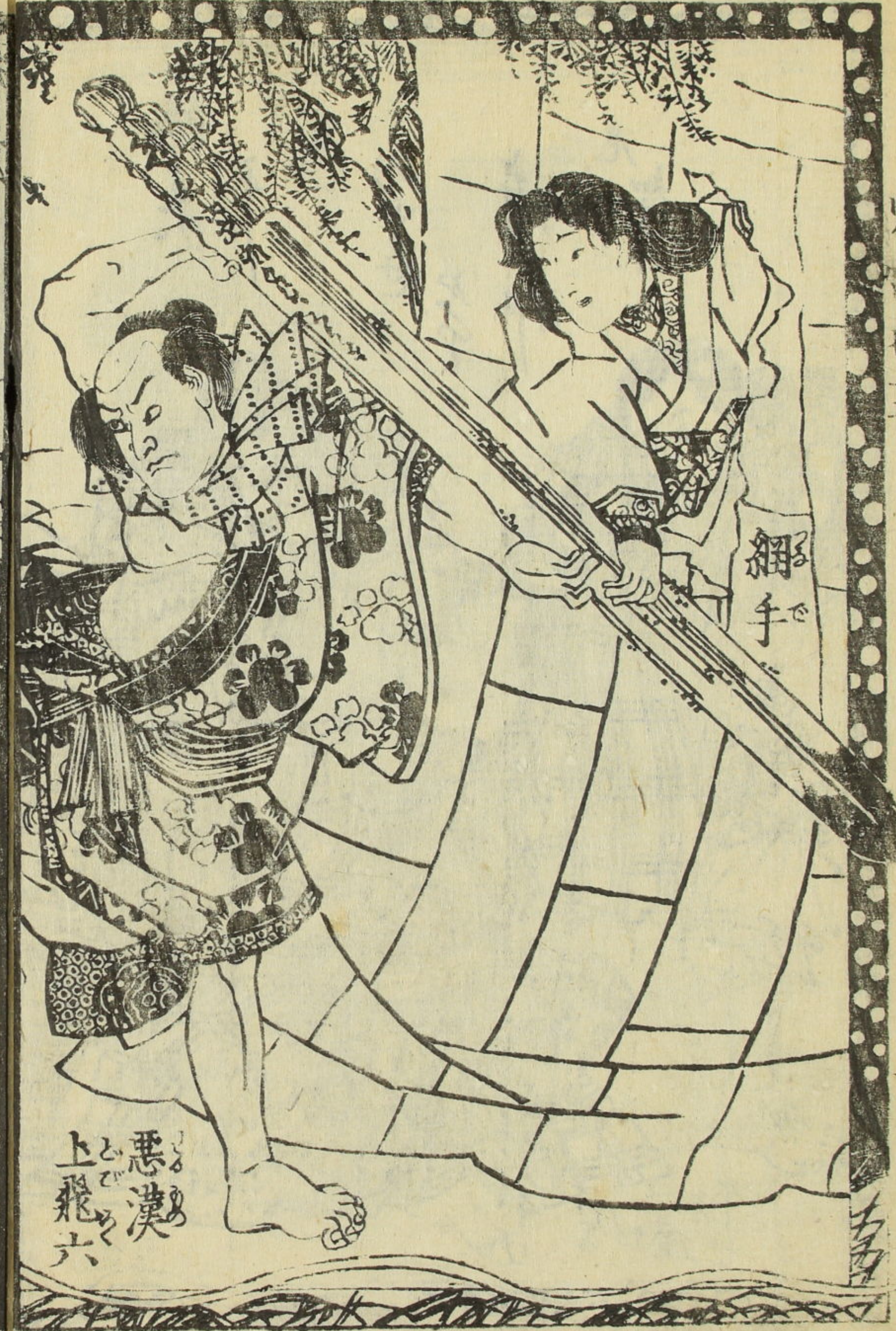
冠番也十七





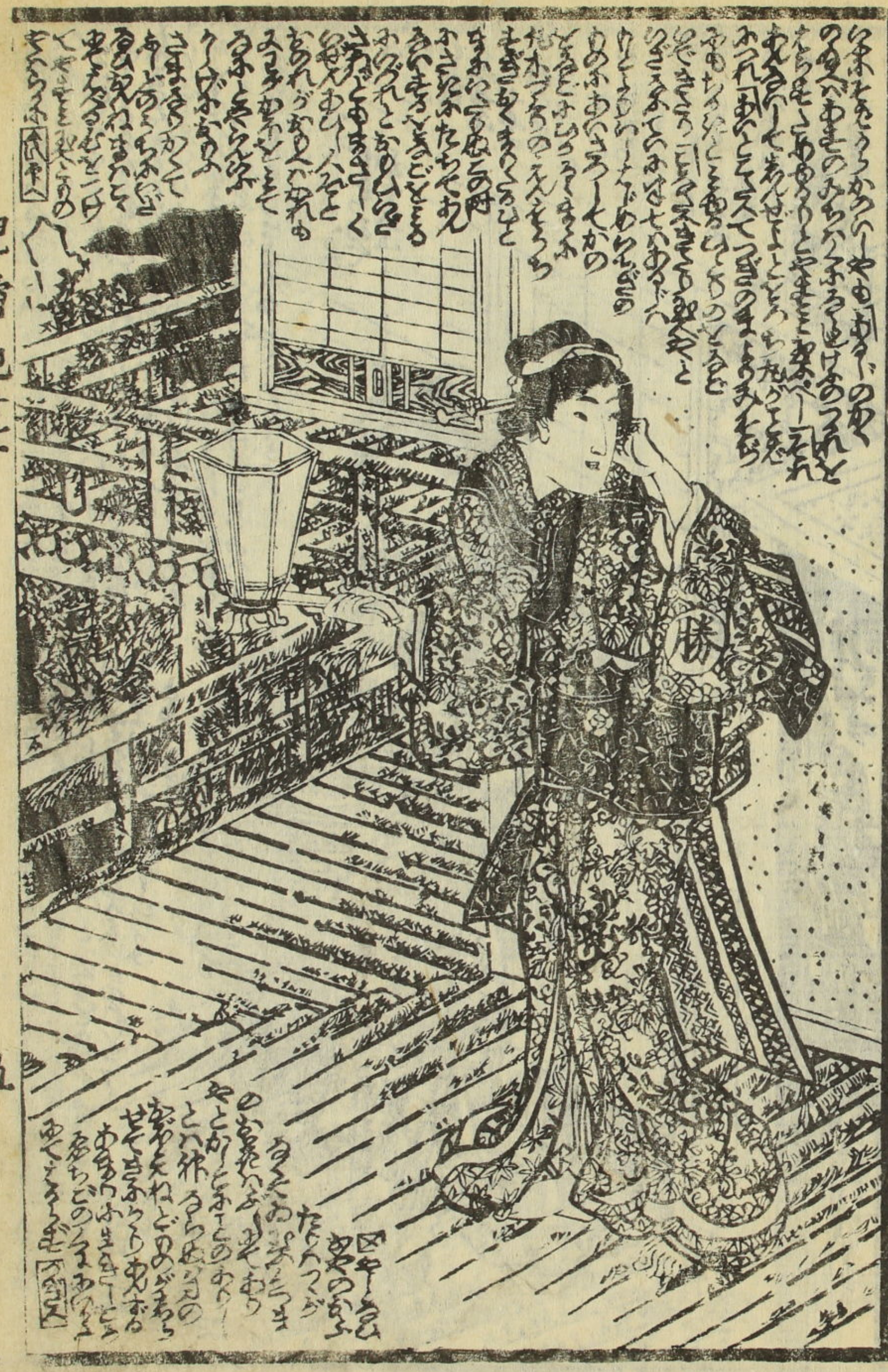


於
此



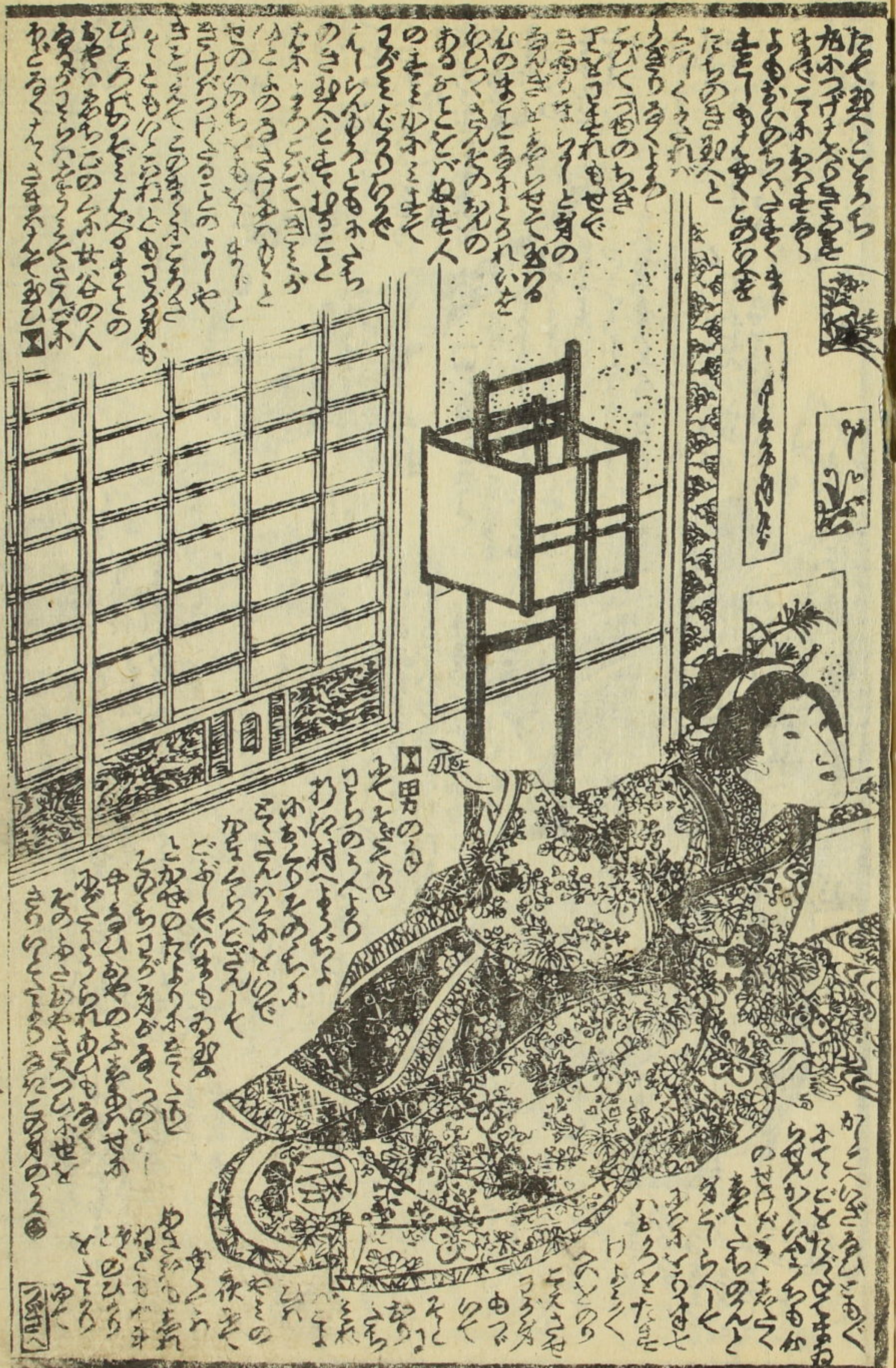
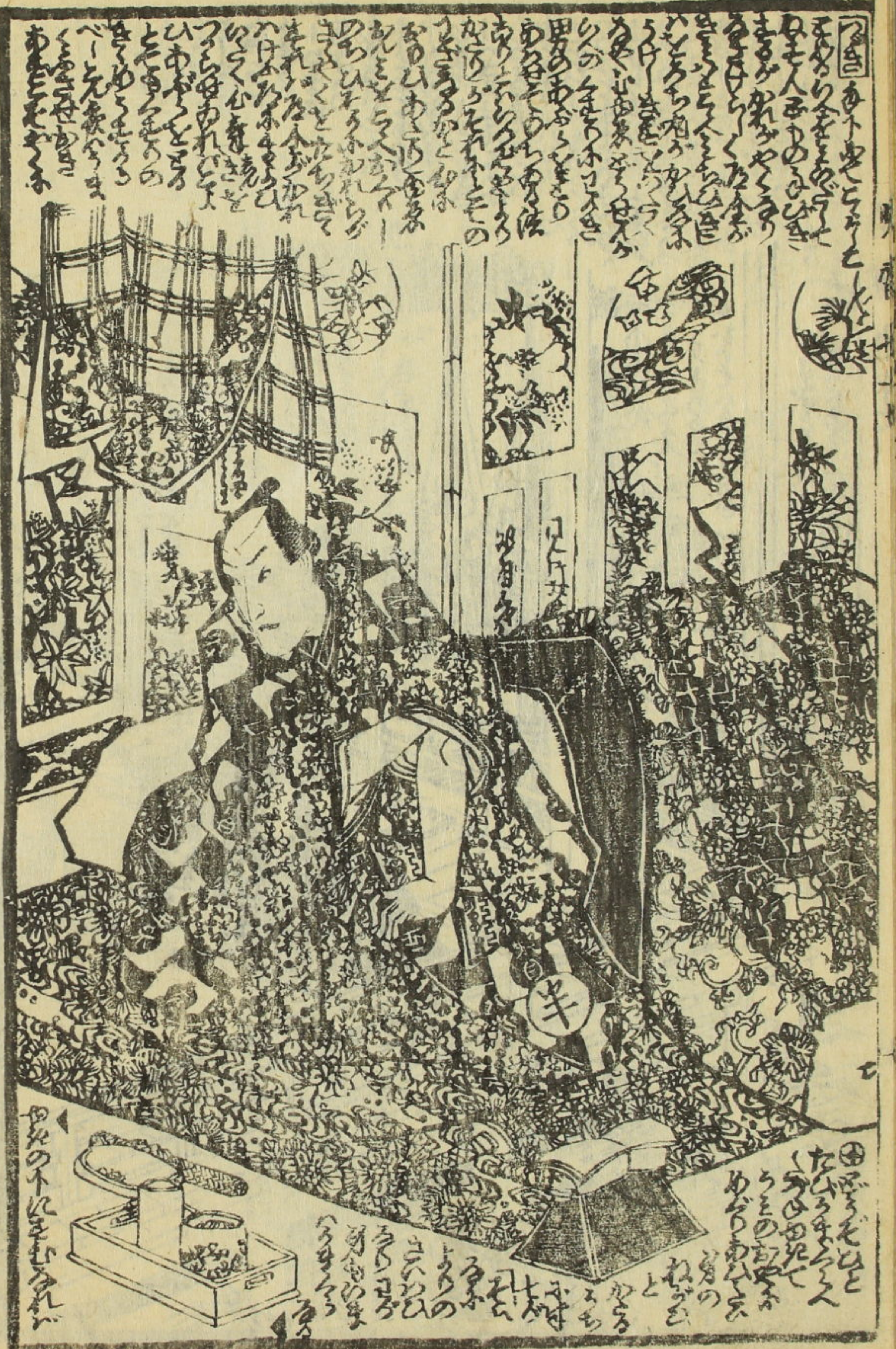
細
手

上
飛
六
悪
漢



見守り上

五





種員作國輝画



一 児雷也豪集譚
四拾七篇

一 休單紙
拾五篇

一 風俗淺間嶽
拾四篇

一 黄金水大盡盃
拾七篇

書肆 問屋
地本

芝神明前
和泉屋
市兵衛

銀座四丁目
支店

